



創立 15 周年を迎えて

栄区囲碁普及会は、今年創立 15 周年を迎えました。栄区の 19 人の囲碁普及に熱意を持った人々が平成 13 年 9 月、この会を立ち上げ、以来 15 年この会は会員数 110 名余、8 教室を運営し、毎年 150 名を超す受講生が学び、多くの有段者及びを生み出してきました。現在、全国的にも稀にみる組織としてあるのは先人たちの努力と会員の弛まぬ協力によるものと感じています。

創立以来の 15 年の歩み

- H13.09 栄区囲碁普及会発足
- H14.07 普及活動はまっ子スクール 16 校に展開
- H14.11 上郷せせらぎ交流会（現三代）に参加
- H16.07 第 1 回こどもとおとなの囲碁大会開催
- H16.10 本郷土曜教室開講
- H16.10 第 1 回級位認定会開催
- H17.04 本中日曜教室開講
- H17.07 第 1 号初段格誕生（栃木康希・小 5）
- H17.10 本郷水曜、桂台日曜教室開講
- H17.10 本郷楽碁会発足
- H17.12 女性初初段格誕生（岸川津弥子）
- H18.02 会報「さかえの石音」1 号発行
- H18.04 豊田日曜、豊田水曜教室開講
- H18.10 上郷金曜教室開講
- H18.10 上郷楽碁会発足
- H19.04 アミー碁発足
- H19.10 日本棋院横浜栄支部発足
- H22.04 上郷日曜開講（本小日曜を移設）
- H22.04 普及会版「上達コーステキスト」使用
- H26.05 栄区囲碁普及会ホームページ開設
- H27.04 会員からの会費徴収廃止
- H28.04 本郷日曜教室開講



さかえの石音特集号(その1)

栄区囲碁普及会の創立 15 周年記念にあたり 感謝を込めてこの号をおくります



僕と栄区囲碁普及会

安藤 俊介（第 4 期生・栄光学院）

この度は栄区囲碁普及会創立 15 周年おめでとうございます、僕と栄区囲碁普及会との出会いは 5 歳の春、オセロが好きだった僕を見て囲碁を習わせてみようと思った母が、囲碁普及会に入会させたのです。毎週末、バスに 40 分間のり暑い日も寒い日も通いました。先生方はとても親切に指導して下さい、僕はどんどん強くなっていきました。週末に教室に通うことも、大会に参加し力を試すことも楽しみでした。17 歳の現在でも、学校関連やその他の大会に楽しく参加しています。大学生になっても社会人になってもずっと囲碁を続けていこうと思っています。一生楽しめる囲碁と幼少時代に出会えて僕は幸せです。機会を与えてくれた母にも感謝しています。じっくり次の戦略を考えて打つ囲碁は、日常生活において、また学業においても役に立ちます。また礼に始まり礼に終わる囲碁に出会えたおかげで人との接し方も学びました。最後になりましたが栄区囲碁普及会の先生方には大変お世話になりました。杉浦先生、木村先生、三間先生そして現在も引き続きお世話になっております肥塚先生、植田先生長年に亘りありがとうございます。

今は 13 路盤で教えています

間嶋 照子（10 期生・インストラクター）

15 周年おめでとうございます。私は、普及会の金曜教室で長年お世話になっています。そして日曜には初級教室で 13 路盤を使って教えながら、私も学んでいます。生徒さんたちがここへ来て「一緒に勉強することが楽しい」と云われると、うれしくなります。生徒さんたちが上達するよう、いつも願っています。そして普及会も益々盛んになることを祈っています。

栄区囲碁普及会15周年を迎えて

佐野嘉男（日本棋院横浜栄支部支部長）

今横浜市栄区は「囲碁王国」と誇れるほど囲碁が普及しており、日本棋院でも神奈川県本部でも日本棋院会員数が全国第2位を維持している栄区を高く評価している。それほど囲碁が普及している大きな要因は囲碁普及会の存在にあるとあって過言ではない。インストラクターが熱心に初級者を指導するのはこの区でも同じであろうが、教室で育て上げた生徒が初段になれば今度はインストラクターに回り初級者の指導に当たるといった仕組みが独特で、長い歳月を積み上げ上昇スパイラルとなって今日があると思う。これからも囲碁連盟・日本棋院横浜栄支部・楽碁会などとの連携を密にし、更なる発展を祈念している。

普及会囲碁教室とのつながり

三間修司（栄区囲碁連盟会長）

私が教室とのつながりを持ったのは4年前になります。きっかけは囲碁連盟の会長になって間もない頃、本中日曜教室のM氏から「一度教室を覗いてみませんか」の一言でした。早速その週に行ってみました。教室の印象は多くの老若男女の生徒さんが熱心に囲碁を学んでいる姿でした。その日、私は実戦対局で二、三の生徒さんの指導碁を打ちました。その時、“こんな形で生徒さんが上達する過程でのお手伝いができればと云う思いがつのり、特にお子さんを含めた若い人たちの成長が楽しみにになりました。現在は本郷日曜教室のインストラクターの一員としてつながりを続けています。



創立15周年心からお祝い申し上げます

坂田保夫（豊田水曜教室チーフ）

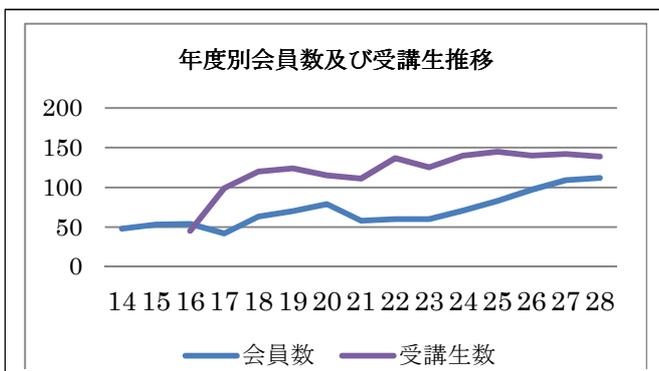
長きに亘り、発展し続けることができるのも、携わる者の努力の結晶、ご同慶の至りです。この囲碁普及活動にあっては、己自身も囲碁を“学び、教え”のサイクルを身に付け、組織を作り、別組織とも連携する素晴らしい“KNOW-HOW”を築き上げてきたと思います。囲碁界も、コンピューターの時代が到来、新たなツールで会は更なる発展が期待されます。

囲碁の効用

中村光良（本郷土曜教室チーフ）

最近の人工知能の進歩は著しく、先頃「アルファ碁」が最強と言われるプロを破るようになりました。しかし、コンピューターと人の対局は本来の人と人の対局とは別のものと考えべきでしょう。何故なら、人と人の対局は各人の技術と心の動きが組み合わせられた勝負であり、コンピューターには技術だけで心は無いのです。著名な脳科学者によれば、人と人の対局では脳の特に前頭葉の血流が顕著に増すのに、コンピューター相手の場合には殆ど変化無いと言うのです。人の心の触れ合いが前頭葉の血流を増すらしいのです。前頭葉とは何でしょう。人が理性や社会性を持って、人間らしく行動する為に重要な脳の一部です。賢い子供を育てるには前頭葉を鍛えることが非常に重要だと言われています。前頭葉を鍛えるには、思考に集中し、精神的な圧力や苦痛に耐え、行動し、結果を吟味し、時には人に褒められることの満足感を味わう。また、人との触れ合いの中で相手の思考や感情を感じ取る能力を身に付け、人と共感する楽しみも味わう。こうして人間らしい豊かな人生を迎えることが出来ると言うのです。囲碁には前頭葉を鍛えるこれらの要素が揃っているのです。多くの子供達がスマホゲームや、文字だけのやり取りのメールに多くの時間を費やすのは誠に残念なことです。是非囲碁を知って楽しい人生を過ごしてもらいましょう。

◆ 年度別会員数と教室受講生数推移



- 受講生は近年150名前後を推移している
- 会員増の大半が元受講生で初段位以上を獲得した人達

囲碁を楽しんでいたら

沢田 珪子 (12 期生 ・インストラクター)

創立 15 周年記念おめでとうございます。日頃思っていることを書かせていただきます。私は碁石が碁盤に打たれる音がとても好きです、心に響きます。自信を持って打つ時の音、とても心地がいいです。いつもこのような音で打てたらいいのですが、なかなかそれは難しい。

まだ、囲碁を始めたころ、お風呂のタイルが見え、今日習ったことをなぞった事もありました。「初心忘れず」でいられたらいいのですが、それもなかなか難しい。これからも、少しずつでも進歩していくことができればと思いつつ、日々囲碁を楽しんでいきたいと思えます。



囲碁好きにとって

樋口 喬之 (8 期生 ・明大囲碁部)

小学校 5 年生で囲碁に出会い、6 年生の時に豊田日曜教室の 4 期生として普及会にお世話になりました。その後、本郷土曜教室で学び、以来 10 年、村山先生や杉浦先生をはじめとする普及会の先生方や栄区の皆様に育てて頂きました。本当に感謝してもしきれません。これからも囲碁を楽しみ続けるとともに、ほんのわずかでも栄区囲碁界の発展に貢献していきたいと思えます。囲碁好きにとって栄区ほど住みよい町はないと信じています。(笑)

めざせ初段

有本 恵美子 (15 期生 ・インストラクター)

あれは 3 年前、「めざせ初段」の目標をたてたもののなかなかトンネルを抜け出すことが出来ずいました。そんなある日飲み会から帰宅した夫が「うちの教室に来ればすぐ初段になれるよ」と友人の藤田亭さんが云っていたことを知らせてくれました。私はすぐその話に飛びつき、上郷金曜教室に入れて頂きました。教室に入って驚いたのは、先生と生徒が大勢いらっしやって、立派なテキストを頂いたことです。また認定会がたびたびあり、勉強の意欲が沸いてきました。おかげで、1 年後には初段の免除を頂くことが出来ました。思えば、私が囲碁と初めて出会った頃に栄区囲碁普及会が誕生していたとは不思議な因縁を感じています。どうぞこれからもよろしく願います。

囲碁のすばらしさを伝えよう！

道休 俊和 (棋院普及指導員)

入門・初級者への普及活動を中心に担当して 15 年、多くの子供達との出会いがあった。教え子の中に高校や大学の囲碁部で高段者となり活躍しているニュースを聞くことは喜びの一つである。又、受験勉強や部活で一時中断していた子供たちが再び石を握っていると云う便りにも胸が熱くなる。ポケモン GO など流行を追いかけ、囲碁離れが叫ばれている昨今だけに囲碁の持つすばらしさを少しでも多くの人々に伝えていかなければと思う。



「さかえの石音」誕生秘話

植田 米男 (副会長 ・渉外担当)

栄区囲碁普及会は子供たちに囲碁を教えようと初代会長の鶴田氏考案の「パチリコ」(6 路盤の磁石で付く赤と白の石)を使用し「はまっ子」に講師を派遣することからスタートしました。発足から 2 年後、2 代目の関口会長の時、子供達の棋力がまちなので子供の棋力認定を行うため「こどもとおとなの囲碁大会」が開催されました。その反省会から本郷土曜囲碁教室が開講されました。栄区囲碁普及会が発足当初はインストラクターの情報交換の手段として「本郷台からのメッセージ」と云う会報を発行していました。A4 版 1 枚の簡単なものでした。現役時代編集の経験があった道休氏の区内の囲碁情報を発信したいとの強い意志におされ、囲碁情報紙と衣替えすることになりました。発行にあたりどうしてもしっかりしたタイトルの表題が必要となり、東京の三美印刷のデザイナーに依頼、作成されたのが現在も使用されている表題です。その表題が現在も使われていることをうれしく思うとともに、これからも栄区囲碁普及会の広報の顔としてあり続けることを願っています。



益々の発展を！

佐藤中勇（上達コース副会長）

平成 20 年 4 月仮 1 級で上郷金曜教室に入学し第 8 期生として 9 月に修了させて頂きました。

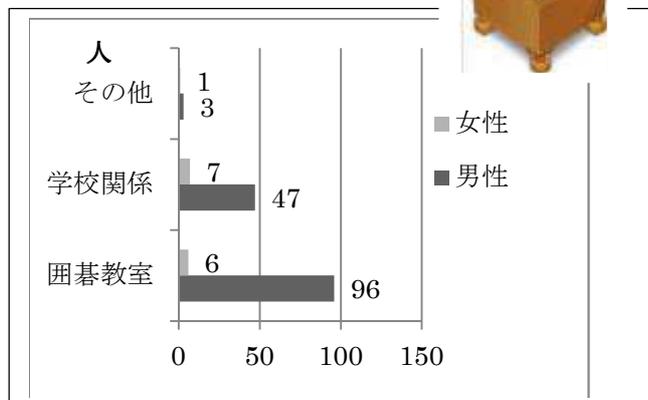
それ以来 8 年間、毎週金曜日教室に参加し、皆さんと一緒に楽しく勉強させて頂いています。当時指導員は 11 名、生徒が 19 名の計 30 名のこじんまりとした教室でした。現在は生徒数 25 名、指導員 26 名計 51 名の大きな教室になり、マンツーマン指導のできる贅沢で、にぎやかな教室になり、隔世の感があります。益々の発展を期待しています。

60 歳からの手習い

宮川 誠（11 期生・インストラクター）

60 歳になったとき、今から 9 年前のことですが定年後の生活を真剣に考えてみました。趣味としてはスポーツ観戦以外、特になく、これでは時間を持て余すことになるかもしれないと感じました。そんな時、栄区の広報紙で普及会のことを知り、早速入会手続きをしました。はじめは豊田初級教室で仮 17 級から始まりました。その後、本郷上級教室で習い、今では何とか各種大会に参加し囲碁の面白さを満喫しています。囲碁のおかげで充実したリタイア生活が送れています。囲碁を覚えて本当に良かったと思っています。インストラクターの先生方には大変感謝しています。そして今、今後は囲碁を通し少しでも社会貢献できたらと思っています。

◆ 会員活動内訳



8 教室、13 学校関連でボランティア活動をしている会員を見るともっと女性の参加を促していく必要がある。

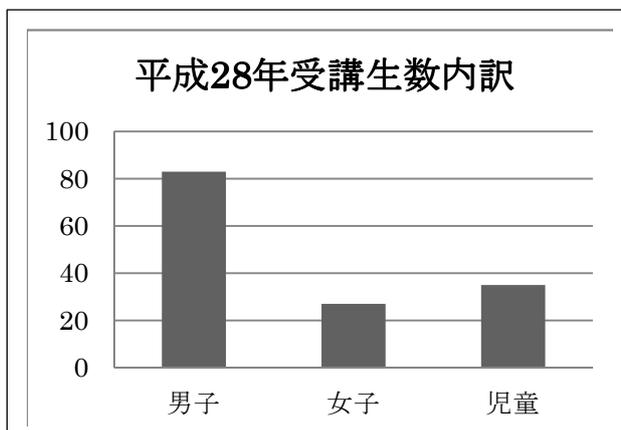
いつの日か又対局を

石川 求（前・上郷金曜教室チーフ）

突然の病によって足首が利かなくなり、現在もリハビリを続けています。歩行もままならず、碁を打ちに行くことも困難な状況ですがパソコンで勉強を続けています。いつの日か皆様と対局できるのを楽しみにしながら・・・



◆ 平成 28 年度囲碁教室受講生内訳



【編集後記】栄区囲碁普及会創立 15 周年を記念しなにか残したいとの編集部の意見がまとまりこの特集号の発行の運びとなった。まずはこの特集号に投稿をよせて頂いた方に謝意を表したい。振り返ってみると 15 年と云う年月は決して短いものでなく創立時のメンバーのなかには活動から退かれた方、故人となられた方もある。この 15 年間、囲碁普及と云う目的のために熱意をもって多くの労力と時間を費やされた方々に敬意を表したい。これらの熱意が実を結び、栄区では囲碁を楽しむ人々が確実に増加し、活動に共鳴する人たちが近隣の区や市から参加するようになってきた。活動するメンバーの高齢化や子供達への普及についてはまだ解決しなければならない課題を抱えているものの、ここまで創意工夫を重ね熱意をもって進めてきた普及活動は新たな力を加え、次のステップに入っていくものと信じている。

尚、投稿して頂いた文章はご本人の記憶を尊重しそのまま掲載しています。読者の方々の意見とそぐわないことが在りましてもお許し願いたいと思っています。

編集委員 道休俊和 山中正巳 佐藤中勇 興野富男
小田武史 渡辺紘 牧野博
発行責任者 牧野 博



栄区囲碁普及会の今後 (創立 15 周年を迎えて)



肥塚淳次 (前・日本棋院横浜栄支部・支部長)

栄区囲碁普及会は囲碁の普及活動で多くの実績を上げてきました。これは神奈川県囲碁界は無論のこと、日本棋院も認めるどころです、今後更に、継続発展させていくために、これまでの活動を振り返り、これからの方向を整理できればとまとめてみました。

1 他の団体ない栄区囲碁普及会の強みは数多くのインストラクターのマンパワーです。

私も平成 19 年以来、神奈川県の囲碁界を眺めてきましたが他に例を見ない特筆すべき力です。囲碁普及活動には手間がかかります。100 名以上のインストラクターのパワーを維持、発展させていくことが不可欠です。教室のインストラクターにすることは重要な施策ですがこれだけでは不十分で、高段者も仲間に引き入れることも必要です。幅広い人脈を平素から大切にすべきです。又女性インストラクターももっと増やすべきでしょう。更にインストラクター同志の交流を深め、絆を強くすることも重要な日常活動でしょう。

2 卒業生を中心とする楽碁会活動の推進も重要な普及活動の一環です

教室だけでは実戦不足は避けがたく、囲碁教室の補完的な役割としても充実させていく必要があります。

3 囲碁情報紙「さかえの石音」の発行等の PR 活動も地味だが大切です。

栄区の囲碁愛好家に囲碁普及活動を発信し、新たな囲碁ファンの開拓につなげていけたらと思います。意欲のある生徒さんを集めることも重要で、これにより教室も活性化しインストラクターも成長できます。

4 他の囲碁団体との共存、協調、協力

さかえの石音特集号(その2) 栄区囲碁普及会の創立 15 周年記念にあたり 感謝を込めてこの号をおくります

栄区には栄区囲碁連盟、日本棋院横浜栄支部、楽碁会等の囲碁団体があり、近年お互いに棲み分け好ましい協調体制が築かれつつあります。特に入門、初心者、級位者への普及活動は普及会の分担するところであり、これからも、棲み分け、協調していくことが大切です。「組織的には少しずつ異なる目的を持った団体が共存、協調して行く体制」を維持していくのが良いと考えます。

5 子供への普及活動には親の参画、行政との連携が必要

子供達への普及活動は長期的な視点に立って重要な課題です。普及会の原点である学校訪問による普及活動は「入口活動」としての役割を果たしているがそれだけでは十分な流れを創り出せていない。今、教育界では囲碁の学校教育の導入が少しずつではあるが進んでいます。これは囲碁が成長過程の教育に良いと云う認識が高まっているためと考えられています。例えば新宿子供囲碁教室(藤沢一就八段主宰)は 15 人でスタートした教室が数年前から 200 名を超える大教室に成長しています。

(NHK 囲碁講座テキスト 2016.2 号)

大学では 25 校、小中高校では 140 校(正課 37 校)に導入されており、東京が中心で、残念ながら神奈川にはまだ波及していません。

又、子供達への囲碁の普及を進めて行くためには親の理解が不可欠です。鎌倉子供囲碁大会(近藤さん、木村さん)はここ数年で大きな大会に成長しましたが当初から親御さんを巻き込んでいました。またスタートは地域の公民館毎の子供囲碁教室と聞いています。三浦の子供教室(中山さん、中さん)も盛んで、ここは行政と結びついて運営していると聞いています。

我々も少し長期的な視点にたつて、子供に対する普及活動を立案企画する話し合いを立ち上げる必要がある。その中で現状の見直しを含めて、将来に対する柔軟な対応を模索すべきでしょう。

「もったいない話」雑感

青井 茂樹 (副会長・イベント担当)

今、振り返るに囲碁との出会いは？生まれたとき！？父、兄（16歳上）・叔父が有段者で石音が子守歌と云っても過言ではない環境であったにも関わらず、歩き始めると近所のワルガキとパッチ（札幌ではメンコの事）、ラムネ（ビーダマ）、陣取り（地面に釘をさし陣地を広げる遊び）に熱中、小学校に上がるころからは野球に明け暮れ、家では飯をかきこみ、ボタンキューの18年間。学生時代、最初の友が大変な読書家で彼（後に電通でコピーライターの執行役員）の部屋は壁という壁、天井まで本・本・本。カルチャーショックを受け、それ以来枕元に本が数冊なければ眠れなくなる習慣になったが、この4年間も囲碁に向かわず室内ゲームはもっぱら中国語の学習？ 社会に出るなり、報酬を得るため（社内試験をクリアしなければ手当半額）専門知識の学習（人生で初めて机に張り付いた感あり）や必要に迫られたとはいえ国内外の政治、経済、歴史、地理などガムシラ時間を費やす反動で酒量が半端でない日々を過ごし、年に数回、義弟（IBMの藤沢工場で2段格）と打つぐらいで生活に占める占有率は無に等しかった囲碁が退職後は一変、普及会で2級からスタートするも、義弟と互角に打っていた驕りもあり、初段ぐらいはすぐにとれると高をくくっていましたが願い叶わず、このころから3年ほどは寝ても覚めても碁石に追いかけられ……。思うは幼い頃、ほんの少しだけでも石音に耳を傾けていればと悔やむばかり……

◆ 現在の栄区囲碁普及会の囲碁教室

教室名	開講年月	現チーフ
本中日曜教室	H17.04 開講	岸川津弥子
豊田日曜教室	H18.04 開講	森安恒夫
上郷日曜教室	H17.10 開講	今岡哲也
本郷土曜教室	H16.10 開講	中村光良
本郷日曜教室	H28.04 開講	小田武史
本郷水曜教室	H18.04 開講	杉田光弘
豊田水曜教室	H18.04 開講	坂田保夫
上郷金曜教室	H18.10 開講	山中正巳

栄区囲碁普及会 15周年を振り返って

田中 建一 (副会長・子ども普及担当)

平成13年10月、栄区囲碁普及会は鶴田会長でスタートしたと聞いています。私は平成14年会社を退職し鶴田さんの紹介で笠間小のはまっ子にパチリコを教えに行ったのが最初で、平成14年12月7日囲碁普及連絡会の名目で、当時のメンバーは鶴田会長、植田、道休、中村、坂田、吉井、高橋清の各氏に、私が普及会に入ったのはこの頃でした。平成15年10月関口会長、平成16年9月本郷土曜教室が誕生、以来教室も、平成28年4月本郷日曜教室上達コースで8教室、受講生も180名になりました。初段を目指す教室として達成した受講生が次々とインストラクターになり普及会の指導者として貢献しています。そのインストラクターや受講生が中心の平成17年10月、楽碁会本郷が誕生、上郷、豊田部に発展に発展し、今では定員オーバーになりつつあります。平成19年8月日本棋院横浜栄支部も発足、28年10月現在会員数233名で毎年、プロ棋士の派遣を受け認定会指導碁が行われています。小学校にもはまっ子、キッズクラブ、クラブ活動等と11校にインストラクターの皆様が活躍しています。28年12月には教室に所属している中学生以下の子供達の親で保護者の会を立ち上げ保護者の参加応援も計画しています。組織も大きくなり栄区の囲碁界も少しは認められるようになり、やり方によればこれだけの組織をもっと発展させることは可能でしょう。しかし会員の高齢化と、会員が会社組織と違い各自がボランティアだけに運営の難しさもあらうと思われます。囲碁普及会の仲間との中国、韓国、台湾に海外囲碁親善旅行も良き思い出です。台湾では台日囲碁親善交流大会、高齢の高橋清さんとともに新聞で紹介されました。韓国では女性ボランティアと対局出来、当時のメンバーは関口会長、佐野、新藤、酒井、高橋清、計倉、道休、飯塚、坂田、田中の各氏でした。囲碁のおかげで沢山の友達も増え、年に数回の囲碁合宿、楽碁会のアフター5時、その他町内会やOB会と第2の囲碁人生を楽しんでいます。今回15周年記念で囲碁川柳の募集が行われ283句もの応募があり、その中にも楽しい囲碁人生が詠み込まれていました。これからも皆様とともに益々の会の発展と楽しい囲碁人生を祈念しています。



「さかえの石音」編集・制作に携わって

小田 武史 (副会長・広報担当)

サラリーマン生活に終止符を打ってから区内の囲碁大会を探し参加するようになったのはH16でした。その後、ある囲碁大会終了後の懇親会にてたまたま同席した道休さんから「栄区囲碁普及会」を紹介され囲碁の素晴らしさと囲碁普及の大切さを説かれ、手伝う事になりました。

「本中日曜教室」を手伝う中、当時の杉浦会長道休氏から“会報紙「さかえの石音」の編集と制作も手伝って欲しい、必要な専用ソフトは用意するから”と誘われ、経験も知識も持たない自分でも専用ソフトがあれば・・・と引き受けたのですが、借りたソフトが使えず(ダウンロード不可)途方にくれました。悩んだ末に、知識も経験がなくても<Microsoft-Windows>を使用している人であれば誰でも担当できるようにと「Word」での制作に取り組み、第8号(H21年4月発行)を制作しましたところ好評を頂き、安堵したものでした。

「さかえの石音」発行は栄区囲碁普及会(編集委員会)が行っていますが内容は、栄区囲碁連盟、日本棋院横浜栄支部のイベント・活動も盛り込んで充実していました。しかし何回も編集に取り組んでみて、この3団体は情報交換が少ないと感じていて、より連携・協力ができればさらに栄区の囲碁発展は加速されるのでは?と考え、H23年に「栄区囲碁団体3トップによる新春座談会」を企画し、代表3人(久保・栄区囲碁連盟会長、肥塚・日本棋院横浜栄支部長、杉浦・栄区囲碁普及会々長:何れも当時)に忌憚のない意見を交換して頂き、「第12号(1月27日発行)」に掲載しました。この時のタイトルが“合言葉は『栄区を囲碁王国に!』”であり、この座談会をきっかけに3団体の協調・連携が確認され、その後楽碁会も加わり、4団体が一致しての栄区内の囲碁普及と発展に寄与している現状に、嬉しく思うと同時に、自分も一役を担えたのではと、栄区囲碁普及会創立15周年を迎えて、感無量のなか更に役立つために自分ができる事を模索している日々です。

級位者対象の囲碁教室に巡り合えて

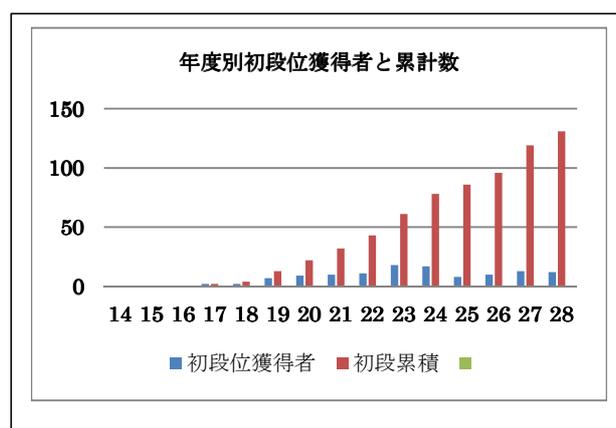
渡辺 紘(16期生・インストラクター)

東日本大震災後、笠間地区で地域交流の場としてできた「やすらぎカフェ」に、2013年2月に「枯れ木も山の賑わいだ、麻雀でも」と顔を出したのが職場での“昼休み囲碁”以来、数十年何ぶりの囲碁との出会いである。囲碁同好会に入ることになり、度点数制による対局を続けたが、相手に迷惑をかけるばかり。悶々としていたとき、市の広報誌で級位者を対象とする囲碁教室があることを知り、2014年4月から学び始めた。定石や布石・手筋の解説を聞いて驚嘆し、対局の場でも優しく分かりやすく指導していただいたことで、同好会でも少しずつ点数が上がり、囲碁が楽しく思えるようになってきた。また、早打ちの戒めや三手先を考えろ!との教えに答えられない悔しさなど、ある意味苦痛を感じることを交えながらの教室通いは、新たな友人たちと知り会えたという喜びも味わうことができたのである。

卒業後は、請われるままに教室のお手伝いなどをして少しでも棋力アップを目指しているが、少しもうまくならず、悶々たる日々を過ごす毎日。能力的にもう無理なのかな・・・。

◆ 初段位獲得を目指す教室運営

栄区囲碁普及会は初段位取得を目指す指導を目標に、平成17年の栃木君から現在131人の有段者を送り出している。



◆ 初めて初段格なった人

- 普及会教室初 栃木康希 (小学5年)
- 普及会女性初 岸川津弥子
- 普及会で最年少 安藤俊介 (小学2年)
- 入門から最短期間 近藤昌之 (3年3か月)

学ぶ楽しさ、知人が増える楽しさ

山中 正巳 (副会長・金曜教室チーフ)

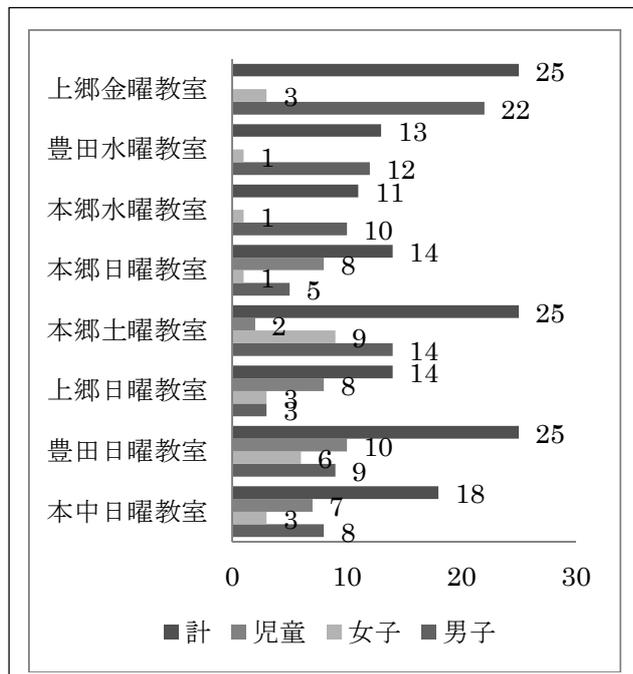
栄区囲碁普及会創立 15 周年おめでとうございます。私が普及会を知ったのは、ちょうど 10 年前、上郷地区センターに金曜教室 (上達コース) が設立されたとき、受講生として入れて頂きました。人数も 7~8 人ぐらいで小規模でしたが、非常に楽しく、毎週金曜日が待ちどおしく思ったものです。今は金曜教室のインストラクターの一員としてやらせて頂いていますが、何とか一人でも多くの方々に「囲碁を学ぶ楽しさ、囲碁を通して知人が増える楽しさ」を散っていただくよう努めております。栄区囲碁普及会もこの先 5 年、10 年先を見据え「どうすれば人が集まるか・・・人の輪をひろげる・・・」をモットーとして、益々発展していくことを祈念しています。

それはパチリコから始まった

橋本 侃 (創立時メンバー)

「出来るだけ大勢の人に、特に子供達に入り易くするには」、パチリコの利用が一番と意見がまとまり、駅前広場、自治会のお祭り会場等、子供達を求め碁盤と石を持参し PR に努めた。これらの努力が切っ掛けとなり囲碁教室の開講が行われ、全国の市町村でも類を見ない囲碁文化を栄区に齎せたと思う。私もその中で、囲碁の歴史や文化について講義の責を担った。

◆ 教室別受講生内訳 (平成 28 年 4 月)



気長に楽しく続けたい

廣本 陽子 (19 期生・インストラクター)

普及会創立 15 周年、おめでとうございます。私は還暦を過ぎてから囲碁のいろはをここで教えて頂き、悪銭苦闘の末、2 年前に何とかまぐれで初段にたどり着きました。これは偏にインストラクターの方々が、内心呆れつつも決して見放さず、何とか励まして指導して下さいのおかげであり、大変感謝しています。やっと囲碁の世界の入り口に立ったところですが、おしゃべりを楽しめる仲間もできましたし、気長に楽しく続けたいと思っています。

この会は役員やインストラクターなどシニアの方々が全くのボランティア精神で熱心に活動して下さい現在に至っています。こう云う真面目で誠実な人たちが日本の高度成長を支えて下さったのだなと感じます。これからも会が更に発展し、子供達も含めて囲碁を楽しむ人が増えることを願っています。そして囲碁普及会に感謝しています。

◆ 年間 1300 万円余の奉仕

私達囲碁普及会の活動は囲碁教室だけを取ってみても、延べ 104 名の方が 8 教室で週 3 時間のボランティア活動を行っています。年間 45 回以上開講していますから、最低賃金 930 円換算で見ても、約 1300 万円以上のボランティア活動をしていることとなります。数はパワーなりですかね！



【編集後記】

この栄区囲碁普及会は囲碁を愛し、多くの人に囲碁の良さを知ってもらい、ともに楽しみたいと願う人の集まりで投稿された文章にもそのことが溢れています。先人達の意志を受け継いでいくうえでも、会を運営していく人それぞれが熱い議論の中に他の意見に耳を傾け、協調のなかでより建設的な方向付をと願うものです。

より多くの人に囲碁を知る機会を与え、ともに楽しむために栄区囲碁普及会は新しい一歩を踏み出すことを期待しています。

編集委員 道休俊和 山中正巳 佐藤中勇 興野富男
小田武史 渡辺紘 牧野博

発行責任者 牧野 博